

野付のチシマザクラ樹勢回復業務実施報告書

2025 年 11 月 樹木医 金田正弘

1. 5 月の樹勢回復処置

①着工前と完成

(イ) 駐車場から正面全景



着工前



完成

(ロ) 校舎から正面全景



着工前



完成

(ハ) 案内標識より全景



着工前



完成

野付のチシマザクラ *Carasus nipponica var kulilensis* の手入れは、春開花後の 5 月 28 日～6 月 1 日に実施しました。春の大きな気象害（風雨、降雪）の影響が少なく開花状況も良好だったようです。春実施の処置内容を報告します。

②根系周辺の土壌改良（施肥）処置
（イ）土壌改良資材による混合土作成



土壌改良資材



土壌改良資材入れ（ピートモス）



土壌改良資材入れ（くん炭）



資材の混合状況

混合土作成に当りピートモス、もみがらくん炭、パーライト、鹿沼土、赤玉土、堆肥、火山礫を用意し、それぞれを入れ、よく混ぜあわせ混合土を作りました。

（ロ）根系施肥処置



穴あけ



まるやま 3 号施用



まるやま 3 号施用完了



混合土施用



高度化成肥料施用



施用完成

施肥は、外柵に沿い多くの穴をあけます（金棒使用）。まるやま 3 号（林業用固形肥料）を入れ、あらかじめ作成した混合土で埋戻します。イーグル（高度化成肥料 15-15-15）を散布し施肥を完成しました。

（ハ）根系周辺施肥の景観



着工前



完成



着工前



完成

③幹腐朽部の処置



太枝の腐朽部の切削り整形



保護剤の塗布状況

太い幹部は、大きくつながった傷、胴枯病等による腐朽部があります。経年の処置として、患部の切削り整形、保護剤（トップジンMペースト）の塗布を実施しています。



保護剤塗布の完成

④枝切り処置



枝切り状況

⑤薬剤散布



トップジン M 水和剤と展着剤ダイン



チシマザクラは、春の開葉まもなく幼果菌核病 *Monilinia kusanoi* が発生し新葉、幼果に感染します。被害葉は、下だれ黒変後枯死します。

登録農薬のトップジン M 水和剤 1000 倍液を展着剤ダインと共に樹冠部全面に散布しました。

2. 10 月の樹勢回復処置

①着工前と完成



着工前



完成



着工前



完成

秋10月の樹勢回復処置は、10月6日～12日に実施しました。近年温暖化の影響でしょうか異常な暑さと何回か強風の気象害があったようです。

②土壌改良資材と混合土作成



土壌改良資材



混合土の作成準備



土壌改良資材の搬入



混合状況



混合土作成完成

③根系周辺の施肥処置



施肥資材 1 式



穴あけ



まるやま 3 号入れ



混合土入れ



高度化成肥料入れ



フジミン入れ

根系周辺の施肥処置は、春 5 月と同様に実施しました。追加でフジミン粒剤（肥料成分を活性化する剤）を散布しています。

④幹腐朽部の処置



着工前



保護剤の塗布



完成



着工前



保護剤の塗布



完成

経年で実施している幹腐朽部の処置は、一定の効果を示しているようです。これらの腐朽を止められなければ太枝の枯損につながります。今後も経過の観察が続きます。

⑤マイマイガの産卵痕と処置



マイマイガの産卵



とりのぞき状況



除却後



マイマイガの産卵



除却後

学校関係者から「今年は、マイマイガの発生が多く見られました」との情報をいただきました。たしかに外柵の丸太に多くの産卵痕が確認されました。小刀で削り落とし、できるだけ除却しました。学校周辺の建物にも産卵痕があると思われます。時間の都合で対応できませんでした。

マイマイガ *Lymantria dispar* は、食葉性の昆虫で桜の葉を好んで食べます。卵からかえった幼虫は、ブランコ毛虫と言われ風で飛び被害を広めるようです。この時期の毛虫は毒を持ち要注意です。幼虫の食葉は、旺盛で数センチの大きさになります。やがて蛹（黒褐色）になり成虫が羽化、産卵し越冬する生活史です。

マイマイガは、林業被害としても重要で 10 年周期で大発生をくりかえすと言われています。来年も被害が発生すると思われるので注意が必要です。画像にあるフェルト状（薄茶色）の卵塊を見つけ次第除却します。建物の壁面、照明灯等いたる所に産卵します。

⑥支柱の設置替え処置



支柱の手なおし状況



支柱なおし完了



支柱なおし完了



支柱なおし完了

学校関係者から「今年は強風がたびたび吹きあれたそうです。枝の折損被害はなかったものの支柱のほとんどがはずれていました。全て設置替え及び1部新しい丸太にとりかえました。」

⑦薬剤散布



トップジン M 水和剤と展着剤ダイン



薬剤の散布状況

樹冠の枝には、幼果菌核病の被害と思われるヤニ状物質が目立っていました。この病害は、完治させるのが難しく観察と継続した薬剤散布が必要です。

3. 試作場の桜の後継樹作成



試作場の桜



実生苗の採取

試作場の桜（エゾヤマザクラ）は、樹齢 100 年と推定される貴重な桜です。中標津にある道の畜産試験場百周年を記念し前身の試作場にあるエゾヤマザクラを育てたいという要望がありました。2025 年 5 月末現地にある試作場の桜から発生したと思われる実生苗を 50 本程採取し持ちかえりました。



実生苗からポット苗の養生

苫小牧にもどり、9cm ポット苗に植えこみ養生中です。10～15cm になり、元気に育っています。記念植栽に使用する苗木は、50cm～1m に養生したいと思っています。